

定例活動／1月28日(土) 「ツツジの園づくり植生管理」

大館 学

この日の活動は、見晴らしの丘東でツツジの園を再生させるべく特別参加の豊田高専の二人を含めて10数人で植生管理作業に取り組みました。

作業に先立って昨年作業を行って見事なツツジの園となった道路予定地北の指標木で葉芽・花芽の数を確認しました。芽の数の増加傾向はみてとれるものの、遊歩道脇の木であったため、一部枝が剪定されてしまうなど想定外の事件もありました。



▲葉芽・花芽の数を数えるようす

ツツジは太陽が大好き、常緑の木々を適度に間引くことで光環境が改善され、ツツジは見事に花をつけることになるのです。作業に移り、小さなツツジの木を見つけてはその付近のソヨゴ

やヒサカキを間引いていきます。時々通り過ぎる人に作業の意義を話し、「春を楽しみにしてください。昨年作業をしたところは見事な開花でしたよ。」と説明すると、かなりの人がそのことを知っていて普段の作業が評価されていることを実感しました。

汗ばむ作業を終え、昼は野浪さんが用意してくれた餅をみんなで楽しみました。竹炭で焼く餅は、しょうゆの焦げる香りが食欲を刺激しおにぎりにプラス一人で3～4個平らげ、作業で消費したエネルギーをはるかに上回るありさま。さらに野浪さんから真空パックの御餅をお土産にもらいみんなにっこり。



▲昼には野浪さん自家製のお餅を堪能。



▲満開時のツツジの園（4月下旬）

午後は、それぞれ場所を変え、植生管理活動に取り組みました。私は散策エリア入り口付近の山桜の日照をさえぎる竹の除伐に取り組みました。山桜の枝ぶりを邪魔するモウソウ竹を合わせて6本切り倒し、ついでにその竹でビートルアパートの竹を交換し落ち葉を補充しました。

植生管理活動は作業後に一日の内容が実感できるくらいの区域で行うのがいいです。今回作業した見晴らしの丘周辺はまだツツジの木がとても小さいので来年くらいにならないとツツジ満開とはいかないかも知れませんが、少しずつでもこうした環境が改善されていき、皆さんに森を堪能していただけることを祈って今回の報告を終わります。

定例活動／2月25日(土) 「アカマツ林再生プロジェクト」

永田 修二

2002年から始まった「アカマツ林再生プロジェクト」も今回で5回目となりました。

暖かな日差しの中、オアシスの森の西側、足元の天白川や名駅の高層ビル群も見わたせる「プロジェクト林」に



▲アカマツ林再生の証として成長する実生苗

約20名が集まりました。

林床の実生苗もずいぶん成長したのもあり、回を重ねるたびにアカマツ林が着実に蘇ってきていることが実感できます。

常緑樹の除伐、林床の整備、チェーンソー部隊の枯れ松処理など、それぞれが分担しい汗をかきました。昨年の放火事件により熊手が焼失してしまったので、「ごーかき」ができなかったことが残念でした。

当日は、横浜舞岡公園のメンバーも参加され一緒に活動し、午後からは意見交換会も行いました。



▲作業中のようす



▲作業後、特別参加の横浜舞岡公園メンバーとの意見交換会